

**Higashi  
Naoko**



裏側がわかれば  
攻略法も見えてくる!!

公募の

裏側

の

大公開!

**Nishimoto  
Keisuke**

今回お話を伺った先生

**西本鶏介**

1934年奈良県生まれ。昭和女子大学名誉教授。JX-ENEOS童話賞、ミツバチの童話と絵本のコンクール、浜松市森林(もり)のまち童話大賞などの選考委員。

**東 直子**

1963年広島県生まれ。早稲田大学教授。和歌の浦短歌賞、河野裕子短歌賞、NHK全国短歌大会、歌壇賞、角川短歌賞、現代歌人協会賞などの選考委員。本誌でも「短歌の時間」連載中。

「選考委員に聞く編」

公募の審査は、どのように行われているのでしょうか。

一般の応募者にはわかりませんね。

そこで今回は、数ある公募ジャンルの中から、

短歌と童話を選び、短歌は東直子先生に、

童話は西本鶏介先生に、審査の模様を伺いました。

審査がどのように行われているのかを知ること、

これを作品づくりに生かしましょう。

撮影 菅地マコト

[ 児童文学者 ]

# 西本 鶏介

Nishimoto  
Keisuke



“ いい作品は、読んでいて、はっ！と手が止まる！ ”

童話賞は通常は予選がある  
審査員が全部読むのは異例

Q1 童話賞の審査はどのように行われますか。

A1 一番多いのは、予選委員に選ばれた人が40編とか50編まで絞り、それを名前が出ている審査員が最終選考で選ぶ方法だよ。

Q2 予選はどんな人が？

A2 プロの人もセミプロの人もいる。児童書の編集部が予選に協

力している場合もある。

Q3 予選がないケースもある？

A3 ある賞では、俺ともう一人の審査員が全部読む。最初に半分以上読んで、あとで交換する。でも、これは異例なことだよ。ほかにはまずないよ。

Q4 最終選考会ではどんなやりとりをしているんですか。

A4 候補作一覧があつて、一つの作品の採点として、ある審査員はA、ある審査員はBというふ

うに記載されている。そうすると、たくさんAがある作品のほうがランクが上というわけだな。それを一応の目安として、予選を通過した作品から10編くらい選ぶ。

Q5 たくさんAのついた作品が受賞する？

A5 必ずしもそうではないよ。最終候補に残った10編からどれを最優秀賞にしますか、優秀賞にしますかってときに意見を言い合うわけだけど、Aがたくさんつ

た作品でも、「いや、これは問題あるよ」という意見が出て最優秀賞にならないこともあるよ。

Q6 ある審査員はAで、ある審査員がCだったら揉めませんか。

A6 揉めることもあるけど、そこは意見だよ。「これ、すごいいいですよ」と言った審査員の声に説得力があれば、みんな「そうだね」と聞くと、説得力がなければ、「あなたそう言うけど、こんなの面白くないよ」ということを理屈で説明するわけだよ。

Q7 最後に受賞する作品の特徴について教えてください。

A7 読んでいて、はっ！と手

が止まる作品だな。「なんだ？」と思うわけだよ。大事なのは、独創的な発想を持った作品であること。人と違うこと、个性的であること。「これなんだ？」と人の気持ちを惹くこと。つまり、どう書くかということだな。家族が亡くなって悲しいと書くのではなく、それを人の胸を打つようにどう象徴させて書くか。それがひとつの個性でもあるわけだ。そして、ストーリーが楽しく面白ければ、少々文章が粗っぽくても、それはすごく印象的なんだよ。文章もあまりひどいのは困るけど、それよりもお話として面白いくだよ。

“一つでも面白い表現があったら残します!”



[ 歌人 ]

# 東直子

Higashi Naoko

誰でも思うようなことがそのまま書いてあるとボツ

**Q1** どのような過程を経て入賞作品が決まるか教えてください。

**A1** NHK全国短歌大会の場合は何万首と来るので予選があり、予選を通った一覧を見て選んでいくというかたちですね。それでも1万首は見ます。

河野裕子短歌賞(青春の歌)の場合は予選なしで私が一人で見たんですが、中高生の作品が1万1千首、それも手書きとかもある生の状態で送られてきたので、ダンボールで2箱ドンドンッと!

**Q2** それをどれくらい期間でいくつまで絞るのですか。

**A2** 9月10日ぐらいに作品が来て、それを24日の審査会に間に合わせたので、実質的には数日でやった感じ。本選には中高合わせて100首ぐらい残り、それを一覧表にして、そのあとは永田和宏さん、池田理代子さん、俵万智さんと合議で決めました。

**Q3** 1万首も見るとなると、1首を見る時間はどのくらい?

**A3** 誰でも思うようなことがそのまま書いてあるとわかると、そういうのは早いですね。引っ掛かりがあるのは、誰も書いてないよ

うな内容であったり、不思議な言いまわしをしていたり、一つでも面白い表現があったら残します。

**Q4** 一度落選候補となったものは、もう見ませんか。

**A4** これは残そう、これはボーダーライン、これは落選のように三種類ぐらいに分けておいて、残そうと思つたもので足りていればそのまま、足りないときは次点の中から選び直します。

**Q5** 落選するものの特徴は?

**A5** いろんな人が思いそうなことが書かれている作品ですね。あと、慣用表現を避けるというの、心に留めておくといいですね。

**Q6** 流派のようなものはある?

**A6** 正岡子規が作ったアララギ系の作風は実直な写生をよしとしますが、でも今は本当のことしか書いてはいけないという窮屈さはなくて、フィクションをませたり、想像を膨らませてファンタジックな世界を詠んでも全然大丈夫。

**Q7** 上達するには?

**A7** 最初の最初は入門書を読みました。佐佐木幸綱さんの短歌入門書を熟読したり。あと、批評しあえる短歌仲間がいればぐっと上達しますが、まずは歌集やアンソロジーをたくさん読むことですね。インプットが増えれば語彙も自然に増えますし、短歌の独特のリズムを体で覚えられ、自分を出しやすくなる。その辺は音楽やスポーツと同じですね。

裏側がわかれば攻略法も見えてくる!!

## 公募の裏側、大公開!

# 編集部が 調べました編

「彼を知り己を知れば百戦<sup>あや</sup>殆うからず」(孫子)という言葉があります。  
しかし、応募する側は公募のことをよくは知りません。これでは勝てません。  
そこで公募の裏側を大公開! これがわかれば攻略法も見えてくる!

イラスト コージトマト



# 公募はいかにして企画されるか

## 企画

### 公募はどんなきっかけで企画されるか

今回、公募を実施している40の主催者にアンケートを行ったところ、公募実施のきっかけでもっとも多かったのは「周年事業」でした。市制10周年、創立30周年、開館5年など、大きな節目に行われる記念事業がこれにあたります。

この「周年事業」は全体の6割を占め、断トツで最多でした。

これと似ているのが、「合併・統合」と「団体設立・施設オープン」で、「0周年記念」という意味では周年事業の一種と言えます。

それ以外は「隣のまちでもやって成功したから」「市民による全員参加にしたかったから」「話題づくりをしたかったから」などの回答があり、それらは「その他」としてまとめられています。

### 公募実施のきっかけ

- 1位 周年事業
- 2位 合併・統合
- 3位 団体設立・施設オープン
- 4位 その他

それなら公募がいいですよ  
作品募集をしましょ、社長！

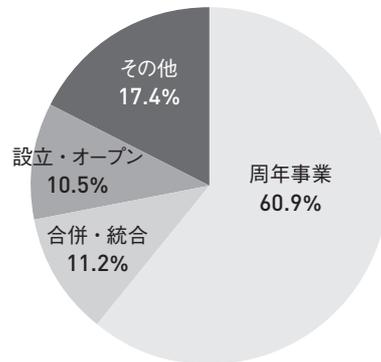


わが社の新製品をPRする  
うまい手はないものか！

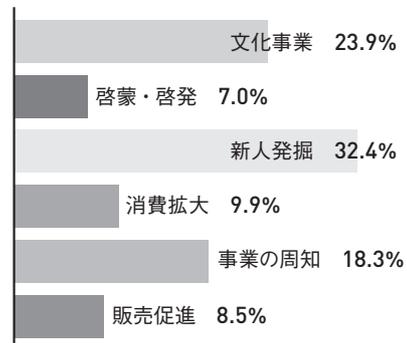
### アンケート調査をしました！

公募ガイド9月号掲載分の主催者に、公募に関するアンケートを実施しました。結果は下記をご覧ください。

### 公募実施のきっかけは？



### 公募の目的は？



### 公募の誕生三つのケース

「公募をしよう」と思うときはいくつかという、三つあります。

一つ目は、募集や発表を通じて普及させたい、宣伝したいものがある場合です。

二つ目は、純粋に作品や人材がなくて困っているというとき。「シャッター商店街の活用アイデア」といったものがこれにあたります。

三つ目は、公募で決めたということと自体を広く知らしめたいとき。市章や市民歌などはトップダウンでコレですと披露すると、誰がいつ決めたんだと批判が出るのですが、募集から審査まで公表すればそんな批判もなくなるからです。

企業にしる公共団体にしる、公募には実施のきっかけと目的があります。ここではそれらを分類。応募者の方はこれを作品づくりに生かしましょう。

**公募を実施するのはなぜ？その目的を六つに分類**

- ① 文化事業  
 郷土の偉人を顕彰したり、伝統文化の振興を意図した公募。営利の意図はありません。
- ② 啓蒙・啓発  
 交通安全のポスター、人権に関する作文などが端的な例。世の中をよくするような訴えがあります。
- ③ 新人発掘・イベント振興  
 有為な新人に作品発表の場を与え、表彰することで、有望な人材を発掘する公募イベントです。
- ④ 消費拡大・普及  
 業界団体や協会などが、消費の拡大や普及を促進させる目的で実施する公募。緩やかな販売促進。
- ⑤ 事業の周知・地域PR  
 主催者や事業の周知徹底を図るものや、地域PR、まちづくりに資する公募。非営利団体主催が多い。
- ⑥ 販売促進・製品PR  
 新製品や店舗、ブランドの宣伝のための公募。企業が多いが、近年は地域ブランドのPR目的の公募も。ほか、細かく分類するときにありませんが、公募には目的があつてその目的に合致した作品が選ばれることは意識しておきましょう。

**【Column】**

**応募者としての学び！**

- 募集の意図は外さない  
 募集の意図は？ どんな作品なら主催者は喜んでくれるか？  
 まずはこれを外さないことが肝心。消費拡大を狙っている公募に、イメージダウンになる作品を送っても選ばれません。
- 考え過ぎてもだめ  
 ところが、考え過ぎてもだめなのが公募の深いところ。  
 ウケがいい作品は？ 主催者の望むものは……と考えると発

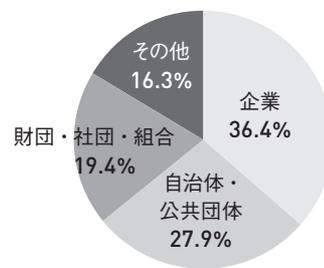
想が出なくなり、出ても「まあ、そうなるよね」というつまらないものしかできません。発想するときは、もっと自由に。

●評価作業は最後に  
 重要なのは最後の評価作業です。つまり、「これは公募の趣旨に外れている」「これは発想がありきたりで、きっとライブとかぶる」というように、事後に客観的に自作を評価します。これがポイントです！

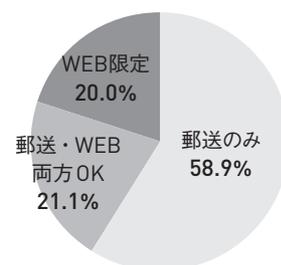
**公募について調べてみました！**

公募ガイド掲載の過去1年分の公募について調べてみました。業種は企業がもっとも多く、ついで自治体となっています。応募の手段は郵送可が80%と大部分を占めますが、ネット上にある公募では郵送不可の割合が大きくなっていそうです。アート作品は郵送や委託搬入ということがほとんどですが、写真は大半がWEB限定、もしくはメールで応募になっています。

主催者の業種別割合



応募の手段の割合



**公募の目的とともに 作品の使い方も考える**

主催者は何を求めているだろうか？と考えるのは基本ですが、さらに言う、作品はどのように使われるかということも考えると、大外れがなくなります。

たとえば、脚本公募や、小説公募でも映像化を意識したものの場合、よく言われるのはSFや時代ものは予算の関係でつらいということ。ジャンル不問とあつても、受賞するにはハンディがあります。

キャラクター募集の場合も実物制作が困難というものは採用されなないでしょうし、夢の実現を支援するという趣旨の公募の場合も実現不可能な案は採用されません。

# 作品はどのように募集されるか

# 2

## 募集

**公募していることを  
どう知らせているか**

公募をどう告知するかにはさまざまな手段がありますが、当然ながらどの主催者も必ずやるのが自社媒体での告知です。つまり、新聞社なら新聞、出版社は雑誌、自治体は広報紙で告知します。

また、昨今ほどの主催者もホームページを持っていませんから、そこでも告知しますし、ツイッターやフェイスブックなどSNSで告知するケースもあります。

しかし、WEBに掲載しただけでは応募は集まりませんので、大半の主催者は公募ガイドのような専門誌やサイトに掲載依頼をし、応募の導線を引きつけています。

### 告知方法のいろいろ

無料

- ・ホームページ
- ・SNS
- ・ポスター・チラシ
- ・広報誌
- ・新聞雑誌記事

有料

- ・新聞雑誌広告
- ・テレビCM
- ・バナー広告

こんな作品は嫌だ！

## 主催者を悩ませる、あんな応募、こんな作品

事務方には、応募者にはわからない苦労が！ いくつか参考までに。

### ■ なんだか梱包がえらい嚴重だ！

絵画等ではなく原稿の募集なのに、頑丈な封筒をさらに厚紙で補強し、ガムテープでこれでもかと封をしてある。やっとの思いで開封したら、さらにビニールにくるんである。封筒開けたらすぐ原稿って状態が理想です。

### ■ 規定枚数と違う！

規定は30枚なのに、どう考えても倍はある。ボツ原稿を審査に入れるわけにはいかないから、字数を数える。うーん、用紙1枚で3枚分、それが30枚だから、ああやっぱり枚数超過だ、ってこんなことしていたら1日が終わるっ！

### ■ タイトルや名前が書かれてない！

作品にタイトルや名前が書かれてない！ ボツにしてもいいが、せっかく応募してくれたのだからと、事務局にて別紙から転記する。逆に表紙に住所や電話番号が書いてあれば、ペンで黒塗りにする。終戦直後の教科書みたい。

### ■ 前のと差し替えてくださいって？

応募したあと、「修正しましたので前のと替えて」と原稿が届く。このたくさんの作品の中から前のを探せて？ 無視したいが、仕方なく原稿の山をひっくり返す。そういうやり直しがきかないのが公募ってこと、自覚して！

うちのホームページだけじゃ、  
作品が全然集まりません、社長！



**穴場を探すなら投稿**

規模の大きな公募ではテレビCMや新聞広告をする場合もありますし、リリースを配信して新聞に記事掲載するケースもあります。

一方、公募というよりは投稿の場合、告知は自社媒体だけになり、しかも、テレビやラジオといった媒体の場合、毎週締切とか、今日の午前中に募集して午後発表というようなものもあります。

そうした、足の早い、公募は、普通に考えれば応募数もあまり多くはありませんが、絶対の穴場となってくれます。新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどにけっこう穴場がありますから、ぜひ身近なところを探してみてください。

主催者は募集をどこで告知し、作品はいつ頃、集まってくるか、作品はどう管理され、主催者はどう思っているかをまとめました。

募集告知について聞きました!

## 「健全な水循環」に関する ロゴマーク募集



お話を伺った  
中島敬太郎さん  
(国土交通省 水  
管理・国土保全局  
水資源部 水資源  
政策課)

2015年春、内閣官房水循環政策本部事務局と水の週間実行委員会では、「健全な水循環」に関するロゴマークを募集し、1457点もの応募を集めました。

目的は8月1日の「水の日」のPRで、昨年施行された水循環基本法で8月1日を「水の日」とすると決まりましたが、ロゴマーク公募を通じて「水の日」をPRし、また水資源のことも考えてもらいたいという趣旨で実施したそうです。

「募集告知はホームページで始めましたが、役所のホームページはなかなか見てもらえない。入り口を広めなければと思い、ローソンにも置いてあり、全国誌でもある公募ガイドに掲載の依頼をしました。ホームページだけで人を呼ぶのは大変ですが、公募に興味のある人が集まるところで告知をすれば、たくさんの応募が見込めるといったからです」

### [ 採用作 ]



受賞者 (株)エイデック 奥野美穂

### 作品の集まり具合のパターン

募集が始まって、早ければその日のうちに応募があることもありすが、本格的に作品が集まりだすのはもっとあとで、募集期間の中盤でも全体の3割ぐらい。残り7割は、最後の1〜2週間に集中します。

構想がまとまっても書きださない人もいますし、締切が近くなつて追い込まれないというアイデアが出ない人もいます。

また、早めに書き上がったも締切日まで推敲し続ける人もいますし、書き上がったあと、いったん寝かし、締切が近づいたら最後にもう一度見直して応募する人もいますから、必然的にどの公募も締切間際に応募が集中します。

### [ Column ]

#### 応募者としての学び!

公募の場合、早く出したほうがじっくり審査されるわけではありません。たいていは締切後にまとめて審査するからです。

逆に、募集が始まってすぐに出すと、「あまり練った作品ではなさそうだ」と思われる可能性もあります(思われても審査には影響しません)。

似たような作品を大量に送るのもあまりいい印象を持たれません。書いたものをすべて応募

する方もいますが、なんでもかんでも出すのではなく、できれば自分の中でのベスト1、多くてもベスト3ぐらいまで絞ることをお勧めします。

推敲は最後の最後までやりたいたいのですが、万一のことを考え、締切の前日ぐらいには出したいです。宅配で応募する人もいますが、その場合は消印が付きませんので、締切日には到着しているように出しましょう。

### 主催者の目に見えない地道な努力

作品が届くと、主催者は作品を保管、開封し、厚紙など不要物を廃棄、規定違反をチェックします。

氏名の書き漏れがあれば書き加え、「一生懸命書きました。よろしくお願ひします」といった文言、審査の妨げになる一切のものは消す、または取り除きます。

さらに、生原稿を複数の審査員に同時に送るとき、または控えをとっておきたいときは、作品をコピーしておく場合もあります。用紙のサイズが指定されている場合は、小さいなら拡大コピーし、大きいなら縮小コピーします。これはかなり厄介な作業です。

# 作品はこうして審査される

# 3

## 審査



### 予選

一次選考や二次選考など、本選までの過程を予選と言います。予選は主催者だけで行う場合もありますが、専門性の高いジャンルや応募数が多い公募では、予選は外部スタッフに委託されます。1次予選を通過するのは応募数のおよそ1割で、そこからさらに絞り込まれ、本選に残るのは全体の1%程度です。つまり、99%が予選で落ちることになります。

### 本選

ネーミング公募やアート系公募、フォトコンテストなどは、最初に、明らかに見劣りするものを落とし、あとは一気に本選になるものもあります（一気にというのは、ある程度の数になるまで絞り込みをし、一日で各賞を決めるという意味です）。文学賞やシナリオ公募の場合、応募要項に記載された選考委員は、最終選考に残った5編程度の作品しか見ません。

### 予選委員に聞きました！

## 傑作を発掘するのが何よりの喜び N.Hさん(ライター、書評家)

### Q. 下読みを始めたきっかけは？

書評を書いていた雑誌の出版社から依頼を受けました。6年くらい、1次選考と2次選考に関わっています。

### Q. 審査について指示はありますか。

基本的な文章表現力や構成力、人物造形力など、いくつかの項目について3~5段階で評価し、その上で、賞にふさわしいかどうか最終評価をします。評価した理由、評価しなかった理由は文章でコメントしなければいけないので、手を抜くことはできません。

### Q. 応募者に言いたいことは？

似たような作品が多いないつも感じます。「いま流行の文章」や「直前の受賞作」に影響され、お手本にしてしまう人が多いのでしょうか。直前の受賞作を読んだら「まったく別のものを書こう」と考えるべき。求められているのは、いつだって新しい才能なのですから。

### Q. 選考のつらいところは？

最初から誤字脱字が続くと、読む気持ちが失せてつらいです。自分で推敲していない作品を人に読ませるの

か、と怒りがわいてきますよ！面白くない作品は途中で投げ出したくなることもあります。最後まで読まないといけないぞという思いで読み切ります。どうすれば面白くなるだろうと考えながら読むと、少し楽しくなってきますね。応募者に伝えられないのが残念ですが。

### Q. 逆に面白いところは？

新しい才能を感じる作品に出会えると、ものすごくうれしくなります。コピーして配りたくなりますね！やりませんが(笑)。

僕たちも、ある意味、プロ！選考のプロ！



公募の審査は、どんな過程を経て、どのように行われるのでしょうか。  
さまざまな公募、さまざまなジャンルの審査について紹介します。

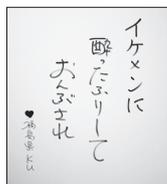
審査について聞きました！

## ハイサワーで酔ったふり！ 休肝日オモシロ川柳 公募キャンペーン

第1回「ハイサワーで酔ったふり！休肝日オモシロ川柳公募キャンペーン」には4407点もの応募がありました。審査は社内の4名で行われ、それぞれ応募作を見て、いいものに印をつけ、次に印のあるものを集めてさらに絞っていったそうです。

「思いのほか応募が多くて大変でしたが、くすくす笑いながら楽しく審査させていただけました。最後はいい作品ばかりで選ぶのに困りましたが、やはり最後は自分たちが『うんうん』とうなずけるものが残りましたね」（博水社社長 田中秀子さん）

現在は、「東京下町酒場のあるあるネタ公募キャンペーン」を募集中。詳細はP121を参照ください。



最後に候補作を色紙に書いてみて審査！

入賞作品は「ハイサワー」に印刷されて入賞者に贈られた！



### 入賞作品

- ・イケメンに酔ったふりしておんぶされ (K・U)
- ・休肝日 一日耐えたと濃い目にし (ハルル)
- ・女房の目が誘ってる 休肝日 (となみ)
- ・ハイサワー 無理なく出来る 休肝日 (とも)
- ・休肝日 妻が差し出す「はい、サワー！」 (熊貓中年)

選考は誰がするのか？  
名前がない場合は？

文章ものの公募は審査に時間がかかります。良しあしが一目ではわからないからです。

文章は、書き出しから結末まで、一定の時間をかけて読んでいき、その内容を理解します。絵画のように一目で全体を見渡すことはできません。複数の作品を一瞬で見比べるようなこともできません。

一方、絵画や写真の場合、会議室などに100点もの候補作を並べ、5〜6人の選考委員が同時に見ていることも可能です。文章もののように事前に原稿を渡し、何週間もおいてから選考会をする必要はなく、だいたいは1日で決まります。

### 【Column】 応募者としての学び！

選考会あるあるをひとつ。

選考会は採めることもありますが、そんなときに結果を左右するのが、声の大きさと説得力とされています。

声だけ大きくても仕方ありませんが、自信を持って「これがいい」と言われ、その理由を論理的に説明されると、定見のない人は流されます。

議論をリードする人がいなかったり、小粒の作品が揃ってし

まったりして、意見がまとまらないときもあります。そのようなときはなぜか減点法になってしまう、「Aはここがだめ、Bはこれが難」となり、もっとも無難なものが採用作になりかけますが、たいがいはここで「この作品は大賞にするにはおとなしい」といった意見が欠て議論がふりだしに戻り、「欠点はあるけど個性的なこれ」となります。結局、独創性が鍵ですね。

作家修業として、文学賞の  
予選委員をやらされる新人

文学賞の予選は、主催する雑誌の編集部のほか、受賞経験者、文筆業など日頃から小説に関わっている人が審査をします。

「そして出来の悪いつまらない小説を山ほど読むことによって、出来の悪いつまらない小説とはどういうものであるか、身に滲みて学んだ」

（村上春樹「1Q84」）  
主人公の天吾は、小説を学ぶために下読みのアルバイトをさせられます。ひとつの作家修業としてやっているわけです。小説の中の話ですが、作者自身の実体験、もしくは身近な人に取材して書いた部分ではないかと思われまます。

# そして、いよいよ結果発表

# 4

## 発表

**表彰式をやるかどうかは、イベント性があるかどうか**

アンケートの結果、表彰式を実施する71%、しない29%でした。

同じ公募でも、コンクルールの意味合いの強い公募イベントは、その一環として表彰式が行われます。もちろん、料理やファッションデザインなど、公開審査自体がイベントの公募の場合、表彰式はつきものです。

一方、公募といっても、投稿に近いようなもの、たとえて言うとう公募の場合、イベント性はありま  
せん。よって表彰式をやる例も少なくなりま

**交通費の出ない表彰式は欠席しても大丈夫か**

アンケートの結果、交通費を支給する67%、支給しない33%でした。

小さな公募では、交通費がでないものも割とありました。

その場合、遠方の人が「所用があつて」と言つて表彰式を欠席したとしてもやむを得ません。それは主催者もわかっていますから大丈夫です。賞金は銀行等から振り込みで、賞状や副賞はあとで送つてくれます。

表彰式に参加した読者に聞きました

### 0泊3日で表彰式に出席！

本誌読者の紺野美紗さん(福島県在住)は、昨年12月、「うどんで広がるスマイルフォトコンテスト」に入賞。香川県で行われた表彰式に、なんと福島県から車で駆けつけました。

「同僚2人が同行してくれることになり、車で行くことになりました。表彰式は15時からでしたので、逆算して前日の22時頃に出発。高松では有名製麺所でさぬきうどんを楽しみ、表彰式では要潤うどん県副知事から表彰されました。

公募を通して、写真を撮る楽しさ、表彰される喜び、現地までの旅を堪能しました。淡路島で大観覧車に乗ったり、瀬戸大橋の夜景を楽しんだり、朝焼けの富士山を見たりと贅沢な0泊3日となりました。なお、交通費+燃料代はETC割引等を利用して6万円ほどかかり、大人3人で割り勘にしました」

片道14時間、現地での滞在時間6時間という0泊3日の超弾丸ツアー。皆さんもいかが！



表彰式の模様(上)と紺野さん親子(右)



ヤッター！  
人生初の入選通知  
表彰されるなんて  
小学校以来だ！



**優秀賞とはどのような賞か**

文学賞では、応募要項には「当選作」としかないので、審査の段階で優秀賞が追加される場合があります。理由は二つあります。

一つは、小説としては優秀賞のほ  
うが面白く、作者の可能性も大きい  
が、作品がきわもの過ぎて受賞作と  
しての品格に欠ける場合(でも、の  
ちに大出世することがよくある)。

もう一つは、受賞には程遠いが、  
落選にするには惜しいという場合。  
作品としては落選でも、ある一部分  
は突き抜けていて、大化けしそうな  
期待が持てるという作品に与える賞  
で、プロ野球の育成枠のようなもの。

表彰式って必ずあるの? 参加するのに交通費は出るの?  
 入選しなければ関係なくても、それでも知っておきたい表彰式事情!

表彰式について取材しました!

## 「日本自動車会館 交通安全キャンペーン」 ポスター原画コンテスト

「日本自動車会館 交通安全キャンペーン」ポスター原画コンテストの表彰式は、9月25日(金)、日本自動車会館1F会議室にて行われました。

入選者は最優秀賞、優秀賞、佳作3名の計5名で、表彰式には東京在住の2名が参加。平日開催で交通費が出ないこともあり、東京以外の入選者は不参加でした。

「自動車会館は、自動車関連の14団体で構成される町内会のような組織で、予算がありません。交通費を出して表彰式に来てもらうのが理想ですが、賞金も10万円ぐらいは出さないと作品が集まらないだろうということもあり、交通費自己負担でお許しいただいているのが現状です」(日本自動車会館 小林義信さん)

入選者が全員欠席だったらどうするという話も出ているそうですが、すべてが充実していると、広報予算を持った公募でないとなかなか難しいようです。



最優秀賞  
「飲酒運転根絶  
人生、〇の泡」  
(増本大二郎)



表彰式に参加した優秀賞の芳賀菜都美さん(右)と入選の竹永絵里さん(左)

表彰式に参加したとき、選考委員の一人に聞いた話です。  
 ある地域(四谷とします)の観光連盟が主催したこのエッセイ公募には約200編の応募があり、それを予選で10編に絞りました。  
 最終選考では、大きな欠陥のある5編がまず落選。残り5編が入選となり、最終的にA、B、Cの3編の戦いとなりました。  
 文章として一番しっかりしていたのはBでした。審査委員長も学術論文っぽいBのエッセイを推し、Aは創作っぽいと批判的。  
 しかし、この公募の目的は観光振興で、Bでは目的が実現できない。それに対してAは読む人の胸を打ち、

四谷に行ってみたいと思わせる力があるという反論がありました。  
 すると、観光客誘致を目指すなら、むしろCの四谷のグルメレポート的な作品がいいという意見が出ましたが、Cは入賞させてと言わんばかりにおもねっていて品がないと却下され、結局、Aが最優秀賞、Bが優秀賞、ほか3編が佳作になりました。  
 Aが受賞したのは運もあります。エッセイの質だけを問うコンテストならBが受賞していたかもしれませぬ。主催者側の人が審査に加わっていたのもAには幸いでした。  
 CはA以上に趣旨には合っていました、こうすればウケると受賞を狙いにいったのが逆効果でした。

優れた作品、趣旨に合った作品、主催者におもねった作品

### [ Column ]

#### 応募者としての学び!

東京で表彰式が行われるとして、東京近郊に住んでいるのであれば、交通費が出なくても表彰式に出席できそうですが、遠方に住んでいる人は考えてしまうでしょう。自費で参加する意味があるのかと。

ですので、その場合は不参加でも仕方ないと思いますが、参加するメリットがないかという

まず、受賞者同士、交流したり情報交換したりする機会にな

りますし、選考委員や主催関係者から貴重なアドバイスをもらえることもあります。

表彰式への参加は入賞者だけに与えられた権利で、落選者は出たくても出られません。

表彰式のために交通費を出すという感覚ではつらいかもしれませんが、旅行に行ったついでに表彰式に寄るといった感覚ならどうでしょうか。せっかくの機会ですので、入選の記念という意味でも有効に使いたいです。